



過去最多となる約 350 人が参加



猪苗代ハーブ園のポピーを眺めながら歩く参加者

ポールを使い健康ウォーク

第7回猪苗代ノルディック・ウォーキング大会

猪苗代の豊かな自然を歩き、健康づくりを行うイベント「第7回猪苗代ノルディック・ウォーキング大会」は6月18日、天神浜や道の駅猪苗代を歩くコースで開かれました。このイベントは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響による風評被害を払しょくしようと、猪苗代青年会議所が毎年開催しています。今年は7、12、17^{キロ}の3コースが設けられ、県内外から過去最多となる約350人が参加しました。

開会式はホテルリステル猪苗代で行われ、猪苗代青年会議所の楠恭信理事長が「猪苗代の自然を満喫し、笑顔で歩いてリフレッシュしてください」とあいさつ。前後公町長が「大勢の方に参加いただき、心より歓迎します。楽しい思い出ができる大会となるよう願います」と歓迎の言葉を述べました。

参加者はノルディックポールの使い方を学んだ後、地元ボランティアから注意事項や案内を聞いてスタート。見頃を迎えた猪苗代ハーブ園のポピーやラベンダーを眺めながら、思い思いのペースで歩き、ノルディック・ウォーキングを楽しみました。

湖畔のキャンプを楽しむ

「GO OUT CAMP 猪苗代 vol.4」開催

キャンプイベント「GO OUT CAMP 猪苗代 vol.4」は6月2～4日の3日間、天神浜オートキャンプ場で開かれました。「アウトドア料理教室」では、出張料理人の小暮剛さんがいなわしろ天のつぶなど地元産の食材を使った料理を紹介。参加者は、小暮さんの華麗な包丁さばきと軽快なトークを楽しみました。郡山市から毎年参加している星峯香さんは「野菜が苦手な子どもでもおいしく食べられます」と感想を話しました。



アウトドア料理を紹介する小暮さん(右)

大学生らが農業体験

Let's いなクティブ体験

町の青年団体などで構成する猪苗代研究所は6月4日、「Let's いなクティブ体験～会津伝統野菜の苗を植えてみよう～」を開催し、福島大学の学生らが農業体験を行いました。参加者は、土屋勇輝さん(壺下)の指導を受けながら余蒔ききゅうりや会津丸なすの苗を土屋さんの畑に丁寧に植えました。福島大学3年の大浦綾太さんは「農作業はとても楽しく、都会に住む人には新鮮に感じます」と感想を話しました。



会津伝統野菜の苗を植える参加者



Pick Up

今月のイベント

道の駅猪苗代 来場者 50 万人達成

前後町長から花束を受け取る吉川友子さん
(中央)と雅也さん(右)

道の駅猪苗代では6月16日、昨年11月のオープンから約7ヶ月で来場者が50万人に達し、同所で記念セレモニーが行われました。

記念セレモニーでは、道の駅猪苗代社長の前後公町長ら関係者がくす玉を割り、50万人到達の節目を祝いました。

50万人目となった郡山市の吉川雅也さんと妻の友子さんに前後町長がブランド米「いなわしろ天のつぶ」1俵(約60^{キロ})やアスパラガス1箱、道の駅猪苗代の食事券1万円分などの記念品を贈りました。

吉川さんは「思いがけない歓迎に驚きました。道の駅猪苗代は、会津観光の拠点としてとても便利な施設です。館内が明るく、食事やお土産も充実しているので、これからも利用したいです」と話しました。

セレモニーでは、50万人の前後2組に記念品を贈ったほか、来場者につきたての餅を振る舞いました。また、曲淵大根クラブの皆さんが餅つきの実演を行いました。

前後町長は「50万人は当初の年間目標数でした。今後も地域から愛される施設を目指し、地元農産物の取り扱いや6次化商品の充実に努めていきます」と抱負を話しました。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Jul.2017
7
No.681

今月の表紙



【撮影日】 6月4日
【撮影場所】 運動公園

猪苗代町民健康マラソン大会親子競争キッズの部(年少～年長)。トップでトラックに戻ってきた一ノ瀬正人さん愛希ちゃん親子。手をつないで最後のラストスパート。(関連8ページ)

Contents — 【目次】

- 02 Pick Up
- 03 猪苗代ノルディック・ウォーキング大会ほか
- 04 町営磐梯山牧場6年ぶりの放牧
- 06 国保のおはなし
- 08 まちのわだい
- 10 キラッ人いなわしろ／ホットニュースほか
- 12 笑顔でこんにちは／和みいな企画展
- 13 スクールトピックス
- 14 いなわしろタウンページ
- 18 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー